

# 部活動レポート 7

## 東京女子学院中学校・高等学校

### 創設1年、意欲的な活動に、 今後の活躍が楽しみな合気道部

「至誠努力の日本女性の育成」を建学の精神として掲げている東京女子学院中学校・高等学校。合気道部は生涯体育としてだけでなく、女性教育としても意味があるとして、昨年春に創設。部員全員が初段取得を目指して、日々稽古に励んでいる。

合気道部を作ることの一つの目標として教員になった高橋明義教諭が創部を実現

東京・練馬区の石神井川のほと

り、閑静な住宅街の小高い丘の上  
に東京女子学院中学校・高等学校  
はある。晴れた日には、西方に芙  
蓉峰（富士山の雅称）を望むこと  
ができる。創立から80余年、当時  
の校名である「芙蓉女学校」から  
名を変えた今でも、校庭の花壇に  
は芙蓉の花が咲く。歴史ある学校  
ではあるが、校舎は近年改装され  
たばかりで、木のぬくもりを感じ  
られるレトロな作りとなっている。  
校花である芙蓉の花のような「美  
しさと優しさ」、芙蓉峰のような  
「気高い気品」を備えた女性の育成  
を目標としており、特設科目とし  
て「礼法」や「華道」の授業も行

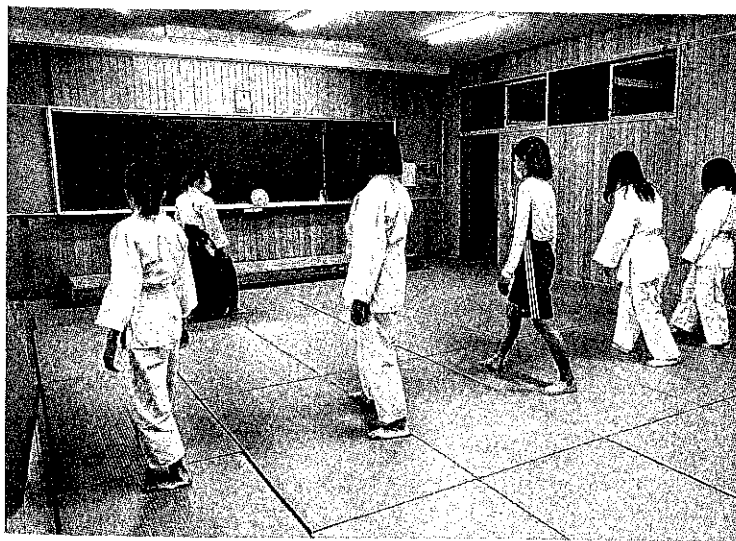
われている。中高一貫校であり、  
生徒数は中高合わせて約340名。  
ほとんどの生徒が部活動に所属し  
ており、中高合同で活  
動している部も多い。

合気道部は、令和3  
（2021）年春に創設  
されたばかりだ。顧問  
の高橋明義教諭は高校、  
大学と合気道を続け、  
合気道部を作ること  
一つの目標として教員  
になったという。

「合気道は老若男女問  
わず習得できる武道で  
あるため、女子校に合  
気道部を創設すること  
は生涯体育としてだけ  
でなく、女性教育とし  
ても意味があることだ  
と考えています」と高

橋先生。

建学の精神として「至誠努力の  
日本女性の育成」を掲げているこ



単独での体捌きの稽古



顧問の高橋先生と一緒に稽古

ともあり、日本文化の武道の一つである合気道部の創設は歓迎された。しかし、試合がなく、演武大会しかないことには初めは驚かれたそうだ。他の部活動のようにわかりやすく結果の出るものではないものの、部員が最終的に初段を取得することを目指して活動することを応援してくれているという。

合気道部の活動場所は、本校舎から続く中学棟の空き教室。柔道を教室の床に敷き詰めて道場と成している。しかし、この道場が完成するまでも苦勞があった。創部当時、まだ部員が増えるかわからない部活動に予算は当然用意してもらえず、畳を購入することはとてもできなかった。当時は足捌きのみ稽古や、体育館からマットを運んで受身の稽古をしていた。

そんな時、親身になって協力してくれたのが野口潔人校長だ。野口校長は多くの警察署等の施設や近隣の学校に連絡を取り、その結果近くの中学校から使っていない柔道畳を貸してもらえることになったのだ。さらに、借りた畳をトラックで運んでくれたのも野口校長だ。このような助けもあり、合気道部は本格的に活動できるようになったのだ。

**合気道が好きになってくれるように、伸び伸びと稽古できる環境作りを**

部員は現在中学1年生1名と高校1年生3名、そしてスイスからの留学生が加わって計5名になっ

## 学校の声

### 東京女子学院中学校・高等学校 野口潔人 校長



本校では創立以来、健全な社会を構成する「気品ある女性の育成」を目指し、情操教育にも力を入れています。困難に出会っても自分らしく生きていける女性（ひと）を育成することは、いつの時代においても必要とされることです。

合気道は試合がなく、争うのではなくお互いを高め合う武道だと聞いています。その合気道の精神は、情操教育の一環としても生徒たちにより影響を与えてくれるのではないかと思います。

先日スイスからの留学生が合気道部に入部をして、生徒たちにはとても良い国際交流の機会になっています。留学生にとっては、いうまでもなく日本文化を学ぶことのできる場になったのではないかと嬉しく思います。

合気道部が新たにできたことで、生徒たちが日本的なものに触れる機会が増えること、さらにいずれは、合気道部の存在を通じて東京女子学院に興味をもつ受験生が増えてくれたらと期待しています。

た。全員が合気道未経験の状態に入部した。学年や国籍に関係なく、仲良く稽古に取り組んでいる。活動日は月・火・金・土の週4日、それぞれ1時間半程度の稽古を行う。毎週月曜日には藤田すみれ本部道場指導部指導員が指導に来る。稽古前、部員が集まると、まず

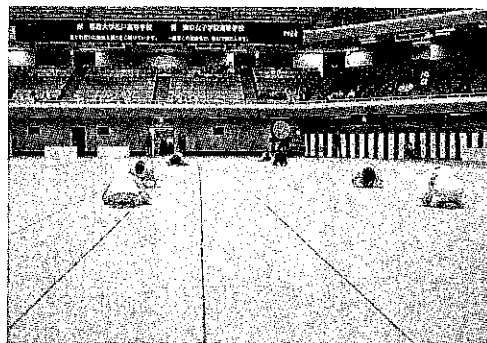
道場の掃除を行う。本校舎までバケツを持って水を汲みに行き、全員で畳を水拭きする。そして準備体操のあと、黙想と礼をして稽古が始まる。

藤田指導員は、安定した身体を作るために稽古の初めに単独での後ろ受身と体捌きを行う。「単独

作をまずはしっかりと行うことで、基本を身に付けつつ、稽古のため身体をつくっていくたい」という。まだ部員全員が合気道を始めたばかりであるため、稽古は基本技が中心だ。まずは技を覚えること、そして怪我をしないで受身が取れることを大切に、稽古を行なっている。卒業までに部員全員が初段を取得することが目標だ。

真剣な稽古ではあるが、和気あいあいとした空気感も大切にしている。「まずは生徒たちが合気道を好きになってくれるように、のびのびと稽古に取り組むことができる環境作りを心掛けています。生徒たちには、在校中はもちろん、卒業後も合気道を続けたいと思ってもらえたら嬉しいですよ。」(高橋先生)

最初こそ稽古中は、「痛い」「怖い」といった言葉がよく聞こえてきたが、今では慣れてきたようで、楽しみながらも懸命に稽古に取り組んでいる。高橋先生の熱心な指導に、部員の楽しそうな悲鳴が聞こえてくることもしばしば……。



全国学生合気道演武大会出場時

創部間もないながらも、東京女子学院合気道部は全国高等学校合気道連盟にも加盟している。残念ながら昨年の全国高等学校合気道演武大会は中止となってしまうたが、昨年11月に開催された第60回全国学生合気道演武大会に、高校連盟からの招待演武として部員全員で参加した。

東京女子学院合気道部はまだ生まれだての部ではあるが、意欲的に活動している。まずは部員を増やし、量を購入することが直近の目標。今後の東京女子学院合気道部の活躍が楽しみだ。

## 部員の声

「武術とは、対人間用に作られたものであり、他人を傷つけないためではなく、自分の身を守るためのものである」

この言葉を聞いて私は深く感心し、同時に自分の気持ちが高揚していきました。この理由から、私は合気道部に入ることを決めました。

この部活は、今年度できたばかりなので皆の技の力の差はあまりなく、『ゼロ』からのスタートとなりました。自分の努力次第で皆との差を付けていくことができますが、それを許してくれない特別な仲間と出会うことができました。今はまだ、技もちゃんと覚えられていなくて、スピードも形も全然なっていないです。でも、合気道という世界に足を踏み入れ、中途半端で終わりたくないの、自分が納得できるまでやりたいと思います。審査で合格して、高校3年生までに先生がびっくりするぐらい上手になることを目標に、稽古に取り組みたいです。習い事との両立や、時間の使い方等自分なりに工夫して編み出していきたいです。目標を達成できるように頑張りたいです。今年も感染対策に気をつけつつ、楽しむことを忘れず、日々の稽古により一層力を入れて、お互いを高め合っていけたら良いなと思っています。

## 留学生の声

私は最近合気道部に参加し始めたばかりですが、いつも稽古を楽しみにしています。合気道は、私が今まで知らなかった新しいタイプの運動です。攻撃と防御の相互作用です。自分の体と相手の体をコントロールすることを学びます。私が合気道で気に入っているのは、多くの調整と技術が必要なことです。難しいプロセスですが、クラブのメンバーや先生が時間をかけて説明してくれます。自分を守るために必要な力がとても少ないことが魅力です。優れたテクニックはとても重要です。合気道で藤田先生と高橋先生の演武は印象的で、それは私が学び続ける動機になります。クラブの他のメンバーと一緒に稽古するのはとても楽しいです。